

会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営等に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	令和元年度高松市歴史資料館等協議会
開 催 日 時	令和元年5月24日(金) 13時30分～15時35分
開 催 場 所	サンクリスタル高松3階 第1集会室
議 題 (報 告 内 容)	(1) 平成30年度高松市歴史資料館等事業実績について (2) 令和元年度高松市歴史資料館等事業計画(案)について (3) その他
公 開 区 分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上 記 理 由	
出 席 委 員	田中委員、寺林委員、久保範高委員、久保朗委員、永安委員、太田委員、鎌田委員、山下委員、塩田委員、柴田委員、池永委員
傍 聴 者	0人
担当課及び連絡先	文化財課 歴史資料館 電話 861-4520

会議内容

改選後最初の協議会開催のため、委員の互選により、会長に田中委員、副会長に永安委員を選出した。

その後、各議題について報告し、次のとおり委員から意見が出された。

議題(1) 平成30年度高松市歴史資料館等事業実績について

(委員)

各館の博物館法における位置づけ、学芸員数はどのような状況か。

(事務局)

石の民俗資料館が登録博物館、歴史資料館が博物館相当施設、讃岐国分寺跡資料館及び香南歴史民俗郷土館が博物館類似施設である。

学芸員は、歴史資料館6人、讃岐国分寺跡資料館1人、香南歴史民俗郷土館2人、石の民俗資料館4人の合計13人である。

(委員)

香南歴史民俗郷土館の事業は、コミュニティセンターの生涯学習事業と競合しないか気になるが、高松市南部の文化財をテーマにした企画展は良かったし、すみ分けもできて、独立性を発揮していると感じた。

また、手仕事に関するテーマは、重要だと思う。

(委員)

小中学生を対象とした講座等は、どのような状況か。

(事務局)

石の民俗資料館では、工作教室を実施しており、夏休みには様々な体験教室を実施している。香南歴史民俗郷土館では、子ども茶華道教室、夏休み子ども講座を実施している。讃岐国分寺跡資料館では、伝統文化子ども箏教室、讃岐国分寺天平文化倶楽部による衣装の着付けを実施している。

今後も、歴史に関する講座等を実施し、古代に興味を持ってもらえる内容を企画していきたい。

(委員)

サンクリスタル学習の補助学習である屋島学習について、「新羅が攻めてきた」などは知らない児童もいるが、現地に行くことで楽しく学べる機会になっている。

石の民俗資料館の体験学習等は大変ありがたいので、今後も講師をお願いしたい。

(委員)

「屋島」は、古代・中世問わず話題となっており、このような教材があるのはとても恵まれている。それを生かしてしっかり教材として活用すればいいと思う。

(委員)

サンクリスタル学習とこども未来館学習の関連性はどうか。

(事務局)

サンクリスタル学習は、歴史資料館のほか菊池寛記念館及び図書館のそれぞれの内容を学び、体験してもらうため、小学6年生をメインとして実施している。当初は屋島学習を行っていなかったが、市内の遺跡等に接することも重要との意味合いで、屋島のほか市美術館も補助学習として追加し実施している。

こども未来館とは、それぞれの特性を考慮しながら学習内容のすみ分けを行いたい。

議題（２）令和元年度高松市歴史資料館等事業計画（案）について

(委員)

各館では様々な展示・イベントを行っているので、委員へも積極的に知らせてほしい。近隣エリアだけではなく、市外・県外・外国の方に館を知ってもらう、来てもらうことが重要なので、今後もいろいろな展示を行い、工夫することも大事だと思う。

(委員)

もっと学芸員による企画を取り入れてほしい。

また、世代を超えて楽しめる企画を期待したい。

(委員)

高松は四国の拠点でもあるので、その利点を生かし、もっと広報活動すべきである。

キャンパスメンバーズ制度は、県内大学等だけが対象なのか。

(事務局)

制度に賛同いただいた大学等が対象であり、現在は県内だけである。

資料館以外に、玉藻公園も対象施設としている。

(委員)

地域を知るためには、その地域の資料館に行くことが大切だと思う。

特に大学生は県外から来ている人が多いので、地域を知ってもらうためにも、どんどん企画を打ち出してほしい。

(委員)

巡回展は、その地域のものを取り入れた展示もすればどうか。予算を考えると同じ展示しかできないかもしれないが、その地域に合ったテーマも含めるといいと思う。

地域の特性を生かし、それぞれの館で違いのある講演等も期待したい。

また、瀬戸内国際芸術祭の開催パターンのように、数年に1回は大きな展示を企画してみるのもいいと思う。

(事務局)

各館の特性を生かした内容を企画していきたい。

(委員)

讃岐国分寺跡資料館は、「国分寺跡」となっているが、史跡以外に四国霊場88か所についても展示を取り入れてみてはどうか。

(委員)

資料館同士の交流が大切だと思う。他館の資料が役に立つこともあると思う。

(事務局)

各館持ち回りで勉強会を実施しており、引き続き実施していく。

(委員)

展示を行ったならば、担当の専門職員もどんどん展示内容をミュージアムトーク等で訴えていくべきだと思う。

(委員)

若い人たちにも興味を持ってもらえるよう、インターネットを十分に活用すべき。

巡回展は、開催場所が変わることによって内容も変わると、繰り返しにならず新鮮である。常設展も変化を加えるといいと思う。

(事務局)

今後も幅広い情報発信に有効なインターネットの活用を進めていく。

常設展示も、多くの方々に興味を持ってもらえるよう、展示内容を工夫していく。

(委員)

万葉集など話題性・興味関心のあるものは、ロビーや学習室で臨機応変に展示すればいいと思う。

(事務局)

讃岐国分寺跡資料館では、昨年度に万葉集に詠まれている植物を中心とした展示を実施しており、歴史資料館では、現在、ロビー展「讃岐の万葉歌」を開催し、歌碑拓本を展示している。

今後も話題性のあるものを取り入れた展示、ロビー等の有効活用に努めていきたい。

(会長)

今回出された意見を今後の資料館運営の参考にして、より良い各館の事業の実施とともに、4館が一体となった運営に努めてほしい。

(事務局)

今回いただいた御意見を基に、企画運営の充実を図り、さらなる集客に向け努めていきたい。

議題(3) その他

なし